

化学物質汚染列島～奇形タンポポの警告

テレビ朝日「スーパーモーニング」ディレクター
兼レポーター
玉川 徹氏



1. 奇形植物との出会い

奇形植物との最初の出会いは、神奈川県津久井湖で見つかったシャスターデイジーでした。その茎は平たい帯状になり、ねじれながら伸び、円形であるはずの花は、円形をつぶしたような形で、まるでオバケのQ太郎の口のような形でした。「気持ち悪い」というのが正直な感想でした。津久井湖のシャスターデイジーの帯化奇形は異常に多い頻度で発生していましたが、その原因はわかりませんでした。

2. 奇形植物と化学物質過敏症

私は、奇形植物に関するテーマは、深い広がりを持っている気がしました。そこで、視聴者に対して情報提供を呼びかけました。その反響は予想以上に大きいものでしたが、その中で気になった情報が2つありました。

まず、北海道からタンポポの帯化奇形の情報が多く寄せられたことです。しかも北海道以外からはタンポポの奇形の情報は来ませんでした。もう一つが北海道に住む夫婦からの情報でした。その内容は「化学物質過敏症で困っている」というものでした。このことと奇形タンポポがどのようにつながるのか初めはわかりませんでした。とりあえず私たちは取材に行くことにしました。

夫婦の家は北海道虻田町にありました。その家は新築してしばらく経つのに、庭には植木も何もなく家がぼつんとあるだけで、家の中に入っても家具もなく、違和感を覚える家でした。夫婦は虻田町の土地開発公社が造成した土地を買い、その上に自分たちで家を建てたそうです。シックハウスについて知

識のあった夫婦は、家を建てる際、シックハウス対策も十分していました。しかし、いざ家が完成し住み始めたところ、体調に異変が出てきました。まず症状が出たのは妻の方でした。1カ月遅れて、夫の方にも症状が出て、仕事に支障をきたすほどになりました。ちょうどその頃、庭に植えた芝生が枯れ、縁側のコンクリートの上に置いた植木もことごとく枯れてしまったそうです。また、小学校の教員だった夫は、新築の家に生徒たちを招きました。するとすぐに、子ども達が湿疹や体調不良を訴え始めました。しかし、外で遊んで帰ってくると治って戻ってきたのです。

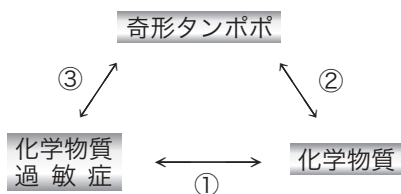
この原因は家にあるのではないかという疑いを捨てきれなかった夫婦は、その後、庭でテントを張って寝てみました。すると、さらに具合が悪くなってしまったのです。もはや二人には敷地内に住める場所はなくなり、二人は家を捨てました。

どうしたらいいかわからなかった夫婦は、医者を経々とし、ようやく病名がわかりました。それは「化学物質過敏症」でした。夫婦は、原因物質を突き止めようとしたのですが、それは難航しました。その間に夫婦の家の庭には奇形植物が出現し、私のところ

に原因を突き止めて欲しいという依頼をしたというわけです。

3. 奇形植物・化学物質過敏症と化学物質

確かに、奇形植物の原因の可能性の一つとして化学物質はありましたが、まだそのつながりは不明確でした。そこで、奇形植物、化学物質過敏症、化学物質のそれぞれのつながりを明らかにすることがこの取材の進むべき道だと思いました。



まず、①化学物質過敏症と化学物質の線をつなげるためには、夫婦の化学物質過敏症の原因が特定の化学物質であることを明らかにする必要性がありました。そのためは、トップダウン的アプローチ（過敏症の原因となった化学物質を見つける）とダウンアップ的アプローチ（その化学物質が過敏症を引き起こすのかを解明する）の両方を一致させる必要がありました。ただ、原因となりうる化学物質は約10万種あり、天文学的数字でした。

そこで、とにかく夫婦の家の敷地の土を調べてみることにしました。すると、残留農薬は検出されませんでした。農薬以外の何らかの物質が土に含まれていることが分かったのです。この物質は、「リン酸トリス（1、3-ジクロロ-2-プロピル）」でした。難燃剤として用いられる有機リン系の化合物です。

私は以前ご主人が話していたことを思い出しました。土を調べようとしてショベルカーでひっくり返したとき、土の中から産業廃棄物のようなものがざくざく出てきたというのです。土地を造成するとき使う礫として、心無い業者が時々、岩等を使わずに産業廃棄物のようなものを使うのだそうです。その真偽はともかく、夫婦の土地の土にリン酸トリスが存在することがわかりました。過敏症の原因となる化学物質はリン酸トリスである可能性が出てきたのです。リン酸トリスは化学物質過敏症、シックハウスの原因となると言われていますから、リン酸トリスと化学物質過敏症はつながります。

では、②奇形植物とリン酸トリスの線をつなげる

ことは出来るのでしょうか。専門家に実験を依頼したところ、リン酸トリスの濃度と、帯化を起こしやすい植物であるサクラソウの帯化頻度の間に、正の相関関係があることがわかりました。しかし、タンポポとリン酸トリスの関係については実験が難しく検証できませんでした。現時点では、両者の関係はまだ薄い線につながったところでした。

最後に、③奇形植物と化学物質過敏症がつながるのか、すなわち奇形タンポポの原因物質と夫婦の過敏症の原因物質は同じなのでしょうか。この点についてもまだ確認はできていません。

4. ある仮説とタンポポからの警告

その頃、北海道でタンポポを専門に調べている渡辺幹男愛知教育大学准教授と出会いました。渡辺准教授によれば、敏感なタンポポだけが奇形を起こすとのことでした。

敏感なタンポポが出現する原因は、ありえない生殖にありました。日本にはもともと有性生殖で増えるニホンタンポポが生息していました。そこに、花粉を受け入れないで殖える無性生殖の西洋タンポポが入り、北海道で爆発的に殖えました。その増殖の間に、まず、ニホンタンポポが西洋タンポポの花粉を受けて雑種（F1）を作ります。さらに、西洋タンポポがF1の花粉を受け入れて雑種を作るという本来ありえない生殖が起こると、その二代目の雑種は奇形タンポポになったのです。敏感なタンポポはすべて、そのような二代目の雑種でした。このような起こりえないことが起こった原因は何らかのストレスではないかと渡辺准教授は考えています。

ここには人間の営みが関係しています。おそらく化学物質が関係しているのでしょうか。その影響により敏感なタンポポが生まれ、その敏感なタンポポが化学物質に反応して奇形を起こしていると考えられます。他方、夫婦は化学物質過敏症です。体内に大量の化学物質を取り込んだことでさまざまな症状を起こし、いまだにその症状に苦しんでいます。タンポポと化学物質過敏症の間には共通点が多くあるようです。そして、タンポポは私たち人間にとってのカナリアではないのでしょうか。人間より先に、人間より弱いタンポポがセンサーとして先に症状を発現させて、人間に害を及ぼす化学物質を教えてくれているのではないのでしょうか。